

鉄コーティング直播 マニュアル



<R8産 重点対策ポイント>

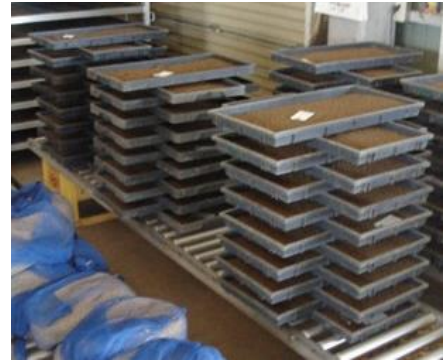
- ・ 種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度の圃場の硬さで播種する。
- ・ 播種5～7日は深水による湛水管理を行う。
- ・ 適期に遅れず除草剤散布を行い、散布後は田面が露出しないように水管理を行う。
- ・ 茎数を確保しやすいので、早めに中干しを開始し、中干し後は干しすぎない。

令和8年4月

アルプス農協管内農業技術者協議会

1. 種子の準備

- ・ 種子の浸種は芽が動き出す前の積算温度 60 度程度としましょう。
- ・ 種子のコーティング比は 0.5 倍量とします。
- ・ コーティング直後の種子は、発熱による発芽率の低下の危険があるので、すぐに苗箱等に薄く広げ（右写真参照）、十分に乾燥させてから保管しましょう。
- ・ 播種前に必ず種子の発芽率を確認しましょう。



2. 代かき

- ・ 代かきは水を少なめに行い、稲株や雑草をしっかりすき込み、均平になるように作業を行いましょう。
- ・ 圃場が均平になるよう移植より丁寧に行い、練りすぎないように注意してください。

3. 播種

- ・ 代かき後、自然落水した状態で播種しましょう。
- ・ 播種時の圃場の硬さは、種子が田面に張り付き、施肥溝が埋まらない程度としましょう。

適正



種子がピタッと張り付き、施肥溝が埋まらない程度の硬さ。



不適



種子が土中に埋まると発芽率が確実に低下します！



- ・適期に適正な播種量で作業を行い、目標苗立数 60 本/m² (m間 18 本) を確保しましょう。

播種時期	10 a 当たり播種量
4 月 25 日～5 月 10 日頃	乾粃で 3.0kg (コーティング種子で 5.0kg 程度)

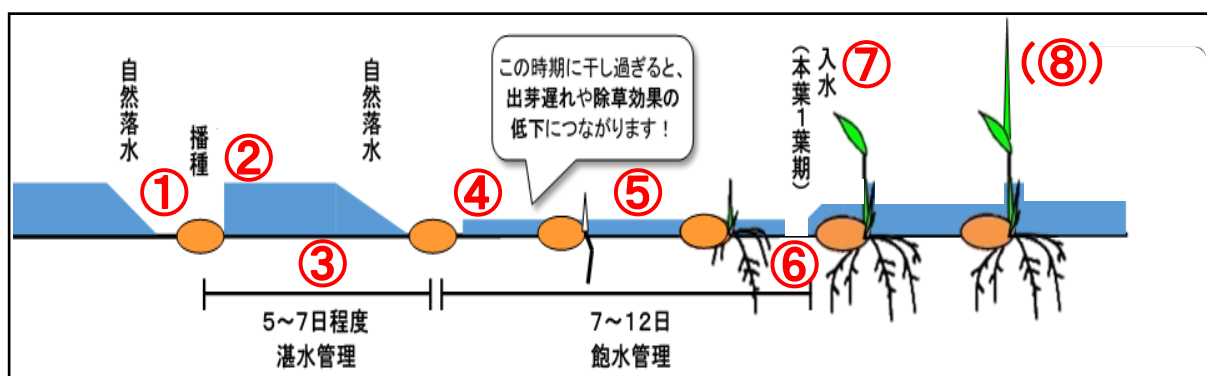
- ・基肥は、倒伏防止のため、移植栽培より窒素成分で 1.0～1.5kg/10a の減肥を目安に施用しましょう。

表 施用量の目安

土壌区分	肥料名	施用量 (/10a)
砂壤土	鉄コート直播コシヒカリ専用 (N-P-K=22-5-20) または LPss 直播コシヒカリ (N-P-K=21-14-14)	32kg
壤土・黒ボク		28kg
粘質土		23kg

4. 水管理

(1) 播種～本葉 1 葉期頃までの水管理

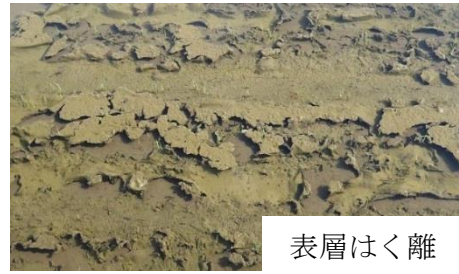


<時期別の水管理方法>

- ①代かき後、自然落水した状態で播種します。
- ②播種作業が圃場の 3 分の 2 程度終わった頃にゆっくり入水します。
- ③播種終了後、5～7 日は水深 5 cm 程度の湛水管理を行います。
- ④自然減水した後は飽水管理とし、ヒタヒタ水の状態にして出芽させます。
- ⑤出芽後もイネ 1 葉期まで飽水管理を行います。
- ⑥イネを落ち着かせるために、軽く田干しを行います。
- ⑦イネ 1 葉期に入水し、浅水管理 (水深 2～3 cm 程度) を行います。
- (⑧イネ 1.5 葉期から 2 葉期に、残草状況を確認し、除草剤を散布します。)

<注意>

- ・播種後の高温で雨が少ない場合に、表層はく離（表土が膜状に浮き上がる現象）が発生することがあります。表層はく離により、出芽直後の苗を持ち上げたり、つぶしたりするので、田干しを行ってください。
- ・スズメの食害は2葉期頃まで注意し、侵入した場合は速やかに湛水してください。
- ・カモの食害は3葉期頃まで注意し、侵入した場合は速やかに落水してください。



(2) 中干し

- ・移植に比べ、分げつが発生しやすく、急速に茎数が増加します。そのため、6月上旬までに溝を掘り、目標穂数の80%である茎数100本/m程度になったら遅れずに中干しを実施しましょう。
- ・中干しは、土の表面に小さなヒビ割れができる程度に干しましょう（3～5日間落水）。
- ・干し過ぎは、穂数不足や除草効果の低下につながるので注意してください。



中干しの終了は、圃場中央部でくるぶしが軽く沈む程度が目安

(3) 中干し後の水管理

- ・移植栽培と同様に水管理を行ってください。

5. 雑草防除

- ・鉄コーティング直播では、稲の出芽苗立ちまで時間がかかりますが、雑草の芽は、代かき直後から動き出します。そのため、**必ず播種時又は播種直後に除草剤を散布**してください。

(1) 播種時または播種直後除草剤一覧

除草剤名	使用時期	使用量 (/10a)	WCS 用稲	飼料用米
ブルーガ1キロ粒剤	田干し、入水後 ～ノビエ2.5葉期まで (ただし、収穫75日前まで)	1kg	○	○
プライオリティ1キロ粒剤	田干し、入水後 ～ノビエ3葉期まで (ただし、収穫90日前まで)	1kg	○	○

(2) イネ2葉期～ノビエ3.5葉期

雑草の状態を確認し、必要に応じて直播に登録のある一発処理剤を散布しましょう。

(3) 中後期剤

雑草の発生状況を確認して、下記の除草剤を参考に散布してください。

発生草種	除草剤名	使用時期	使用量 (/10a)	使用上の注意点	WCS用稲	飼料用米
ノビエ	クリンチャー ジャンボ	播種後10日～ノビエ3葉期 (ただし、収穫30日前まで)	50g×20個	・効果をもとめるため、6cm程度の深水で散布し、散布後、5日間は湛水状態を保つ。	○	○
		播種後25日～ノビエ4葉期 (ただし、収穫30日前まで)	50g×30個		○	○
	トドメMF 1キロ粒剤	イネ3.5葉期～ノビエ4葉期 (ただし、収穫50日前まで)	1kg	・効果をもとめるため、5cm程度の湛水状態で散布する。	○	○
	トドメMF 乳剤	播種後10日～ノビエ6葉期 (ただし、収穫50日前まで)	200mL 希釈水量 25～100L	・雑草の茎葉に確実に付着するよう散布する。 ・散布後3～4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。 ・展着剤は加用しない。	○	○
ノビエ マツハイ ホタルイ	アクシズMX 1キロ粒剤	イネ2葉期～ノビエ3.5葉期 (ただし、収穫45日前まで)	1kg	・散布後5日間は湛水状態を保つ。	○	○
	※ テッケン 1キロ粒剤	イネ4葉期～ノビエ4葉期 (ただし、収穫60日前まで)	1kg		○	○
	トドメバス MF液剤	播種後10日～ノビエ6葉期 (ただし、収穫50日前まで)	1,000mL 希釈水量 100L	・落水状態で散布し、散布後3～4日間は入水しない。 ・散布後に晴天が続くような日を選んで散布する。 ・展着剤は加用しない。	○	○
ノビエ 一年生 広葉 雑草 クサネ	ロイヤント 乳剤	イネ3葉期～ノビエ5葉期 (ただし、収穫45日前まで)	200mL 希釈水量 100L	・落水状態で散布し、散布3日以内に入水する。 ・散布後7日間は落水、かけ流しをしない。 ・展着剤は加用しない。	○	○
マツハイ ホタルイ ミズガヤツリ 他	バサグラン 液剤	イネ3葉期～収穫45日前まで	500～700mL 希釈水量 70～100L	・落水状態で散布し、散布後3～4日間は入水、落水をしない。 ・散布後に晴天が続くような日を選んで散布する。	○	○

※トリケトン系成分（ベンゾビシクロン、メソトリオン、テフリルトリオン）が含まれているため、「やまだわら」等の感受性の品種では使用しない。

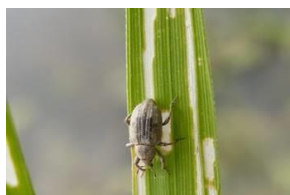
6. 病害虫防除

直播は、移植と違い苗箱施薬による防除を行わないため、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ等の害虫やいもち病の防除が必要となります。

(1) イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ

・発生が見られたら、5月下旬～6月上旬に以下を参考に防除してください。

対象害虫	防除の目安	薬剤名	使用量 (/10a)	使用上の注意点	WCS用稲	飼料用米
イネミズゾウムシ	成虫数 3.0頭 /10株	トレボン粒剤	2～3kg	<ul style="list-style-type: none"> 湛水状態（3～5cm）で均一に散布する。 散布後、少なくとも4～5日間は湛水状態を保つ。（7日間は、落水、かけ流しはしない）。 	○ 収穫 21日前 まで	○ 収穫 21日前 まで
イネドロオウムシ	成虫数 0.5頭 /10株	トレボン粉剤DL	3kg	<ul style="list-style-type: none"> 前年多発した圃場等では発生状況を必ず確認する。 	○ 収穫 7日前 まで	○ 収穫 7日前 まで



イネミズゾウムシ(成虫)と食害



イネドロオウムシ(幼虫)と食害

(2) いもち病

・下記の薬剤で、確実にいきましょう。

薬剤名	散布時期	使用量	使用上の注意点	WCS用稲	飼料用米
ルーチンシードFS	播種前 鉄コーティング中に 塗抹処理	乾燥種籾 1kg 当たり 原液 8ml (原液 71ml/10a まで)	<ul style="list-style-type: none"> 塗抹処理では、コンクリートミキサーまたは回転式コーティング機を用いて、加水量を調整し、種もみを攪拌させながら均一に付着させる。 	○	○
ルーチン粒剤	6月15日頃	1kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> 湛水状態（水深3～5cm）で均一に散布する。 散布後、少なくとも7日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしない。 	○ 収穫 30日前 まで	○ 収穫 30日前 まで

(3) 紋枯病

・前年度、紋枯病が発生した圃場では下記の薬剤で、防除を行きましょう。

薬剤名	散布時期	使用量	使用上の注意点	WCS	飼料用米
エバーゴールドシードFS	播種前 鉄コーティング中に 塗抹処理	乾燥種籾 1 kg 当たり 原液 10ml (原液 44ml/10a まで)	・塗抹処理では、コンクリートミキサーまたは回転式コーティング機を用いて、加水量を調整し、種もみを攪拌させながら均一に付着させる。	○	○
リンバー粒剤	幼穂形成期 1週間前 ～幼穂形成 期頃	3～4 kg	・湛水状態（水深3～5 cm）で均一に散布する。 ・散布後、少なくとも7日間は湛水状態を保ち、田面を露出させず、落水およびかけ流しをしない。	○ 収穫 30日前 まで	○ 出穂前 まで

(4) その他の病虫害防除（移植に準じて防除を行ってください）

①粉剤体系

	随時防除		基本防除			随時防除
	紋枯病の発生が多い圃場 コシヒカリ：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃		出穂期 (てんたかくは必須防除)	穂前期	傾穂期	カメムシが多い圃場 傾穂期後
薬剤	バリダシン粉剤DL		ビームモンカットスタークルF粉剤5DL	ラブサイドキラップ粉剤DL	スタークル粉剤DL	トレボン粉剤DL
使用量	3～4kg/10a		4kg/10a	4kg/10a	3kg/10a	3～4kg/10a
対象病虫害	紋枯病		いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	カメムシ類
WCS用稲	-		-	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで
飼料用米	○ 出穂前まで		-	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで

②液剤体系

	随時防除		基本防除			随時防除
	紋枯病の発生が多い圃場 コシヒカリ：出穂10日前頃 てんこもり：出穂7日前頃		出穂期 (てんたかくは必須防除)	穂前期	傾穂期	カメムシが多い圃場 傾穂期後
通常散布	薬剤	バリダシン液剤5	モンカットフロアブル＋スタークル液剤10	ラブサイドK2フロアブル	スタークル液剤10	トレボン乳剤
	使用量	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 1,000倍	150L/10a 2,000倍
空中散布	薬剤	バリダシンエアー	モンカットフロアブル＋スタークル液剤10	ラブサイドK2フロアブル	スタークル液剤10	トレボンエアー
	使用量	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍	0.8L/10a 8倍
対象病虫害	紋枯病		いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類	いもち病、カメムシ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ類（通常）	カメムシ類
WCS用稲	-		○ 収穫14日前まで	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで
飼料用米	○ 出穂前まで		○ 収穫14日前まで	-	○ 収穫7日前まで	○ 収穫7日前まで